

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2019年11月14日
【四半期会計期間】	第19期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社フェニックスバイオ
【英訳名】	PhoenixBio Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 島田 卓
【本店の所在の場所】	広島県東広島市鏡山三丁目4番1号
【電話番号】	(082) 431-0016 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部長 田村 康弘
【最寄りの連絡場所】	広島県東広島市鏡山三丁目4番1号
【電話番号】	(082) 431-0016 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部長 田村 康弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期連結 累計期間	第19期 第2四半期連結 累計期間	第18期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年9月30日	自2019年4月1日 至2019年9月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	426,792	521,862	1,228,363
経常損失 ( ) (千円)	249,858	155,437	279,684
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 ( ) (千円)	251,056	156,752	297,499
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	252,975	154,285	331,940
純資産額 (千円)	1,621,621	1,399,155	1,542,655
総資産額 (千円)	2,029,295	1,935,560	1,905,299
1株当たり四半期 (当期) 純損失 ( ) (円)	86.18	53.54	101.96
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	79.9	72.3	81.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	89,353	34,327	159,534
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	8,737	757	64,625
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	32,234	30,023	64,743
現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高 (千円)	819,475	655,466	656,689

回次	第18期 第2四半期連結 会計期間	第19期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	29.37	26.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益については、1株当たり四半期 (当期) 純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境が改善する中で、景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、米中貿易摩擦の長期化、英国のEU離脱問題、中東情勢の緊迫化など世界経済の不確実性に対する懸念から、先行きは不透明な状況にあります。

当社グループの顧客が属する医薬品業界では、世界人口の増加と新興国の所得水準の向上を背景として市場は成長しておりますが、特許切れによる後発薬の台頭、新薬開発の長期化等により製薬企業の収益性は厳しさを増しております。一方で、潤沢な資金を持つ大手製薬企業は、新たな収益源を求めて有望なパイプラインには積極的に投資する等、M&Aによる業界再編が活発な状況にあります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増え、当社がターゲットとしている前臨床試験におきましても製薬企業の外部委託は拡大傾向にあります。

このような状況のもと、当社グループはマウスの肝臓の70%以上がヒトの肝細胞に置き換えられたヒト肝細胞キメラマウス（当社製品名：PXBマウス）を用いた受託試験サービスを提供しており、世界の手製薬企業が研究開発拠点を置く米国を中心とした海外市場の拡大に注力してまいりました。

現在、肝炎関連試験が主力となっている薬効薬理分野においては、一部海外製薬企業の開発状況に停滞感が見られ、前期から続いていた良好な受注環境は一服しました。また、上半期に予定していた受託試験のずれ込みも発生したことから、売上高は前年同期を下回る水準となりました。一方、多くの新薬が対象となることから当社グループの成長分野として位置付ける安全性等分野においては、海外市場で核酸医薬品関連の受注が伸びており、受注高及び売上高は前年同期を上回っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は521,862千円（前年同期比22.3%増）、営業損失は165,039千円（前年同期は営業損失265,588千円）、経常損失は155,437千円（前年同期は経常損失249,858千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は156,752千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失251,056千円）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

##### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,098,382千円となり、前連結会計年度末に比べ36,620千円減少いたしました。これは主に仕掛品が45,797千円増加した一方で、売掛金が103,548千円減少したことによるものです。また固定資産は837,177千円となり、前連結会計年度末に比べ66,881千円増加いたしました。これは主に一部在外子会社においてIFRS第16号「リース」の適用に伴い、使用権資産が81,305千円増加した一方で、のれん償却額等の計上によりのれんが13,097千円減少したことによるものです。この結果、資産合計は1,935,560千円となり、前連結会計年度末に比べ30,261千円増加となりました。

##### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は428,772千円となり、前連結会計年度末に比べ124,388千円増加いたしました。これは主に前受金が110,941千円増加したことによるものです。また固定負債は107,632千円となり、前連結会計年度末に比べ49,372千円増加いたしました。これは主にリース債務の増加によりその他が59,342千円増加したことによるものです。この結果、負債合計は536,404千円となり、前連結会計年度末に比べ173,761千円増加となりました。

##### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,399,155千円となり、前連結会計年度末に比べ143,500千円減少いたしました。これは主に譲渡制限付株式の発行により資本金が5,412千円、資本剰余金が5,412千円、それぞれ増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が156,752千円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,223千円減少し、655,466千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は34,327千円(前年同期は89,353千円の使用)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失155,546千円があった一方で、前受金の増加110,941千円、売上債権の減少103,678千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は757千円(前年同期は8,737千円)となりました。これは主に子会社になったKMT Hepatech, Inc.株式の取得価格修正による収入14,594千円があった一方で、有形固定資産の取得による支出15,577千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は30,023千円(前年同期は32,234千円)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出16,002千円、リース債務の返済による支出12,253千円があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、105,579千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,934,000	2,934,000	東京証券取引所 (マザーズ)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	2,934,000	2,934,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2019年7月12日 (注)	11,300	2,934,000	5,412	2,259,264	5,412	479,173

(注) 特定譲渡制限付株式報酬としての新株式発行

発行価格 958円

資本組入額 479円

割当先 当社取締役1名

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
三和商事株式会社	奈良県橿原市雲梯町594	1,008,000	34.36
森本 俊一	奈良県橿原市	506,000	17.25
株式会社特殊免疫研究所	東京都文京区後楽1丁目1-10 日本生命水道橋ビル	129,000	4.40
株式会社バイオインテグレンス	広島県東広島市鏡山3丁目13-26	94,000	3.20
株式会社叡拳	東京都文京区後楽1丁目1-10 日本生命水道橋ビル	88,000	3.00
積水メディカル株式会社	東京都中央区日本橋2丁目1-3	80,000	2.73
中外テクノス株式会社	広島市西区横川新町9番12号	57,000	1.94
三菱UFJキャピタル4号投資事業有限責任組合	東京都中央区日本橋2丁目3-4	55,000	1.87
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	34,021	1.16
島田 卓	栃木県下野市	21,300	0.73
計	-	2,072,321	70.63

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,932,700	29,327	-
単元未満株式	普通株式 1,300	-	-
発行済株式総数	2,934,000	-	-
総株主の議決権	-	29,327	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式45株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 単元未満株式の買取請求に伴い、当第2四半期会計期間末現在の自己株式数は45株となっております。

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。





## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	656,689	655,466
売掛金	245,256	141,708
製品	21,110	43,264
仕掛品	56,947	102,745
原材料及び貯蔵品	94,896	97,733
その他	60,102	57,465
<b>流動資産合計</b>	<b>1,135,002</b>	<b>1,098,382</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	118,240	119,822
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	46,186	45,349
土地	296,000	296,000
リース資産(純額)	9,607	8,303
使用権資産(純額)	-	81,305
<b>有形固定資産合計</b>	<b>470,035</b>	<b>550,780</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	283,666	270,569
その他	4,777	3,819
<b>無形固定資産合計</b>	<b>288,443</b>	<b>274,388</b>
投資その他の資産	11,817	12,008
<b>固定資産合計</b>	<b>770,296</b>	<b>837,177</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,905,299</b>	<b>1,935,560</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	27,337	34,730
1年内返済予定の長期借入金	26,004	20,004
未払法人税等	10,876	8,229
前受金	110,925	221,866
その他	129,239	143,941
<b>流動負債合計</b>	<b>304,383</b>	<b>428,772</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	22,485	12,483
資産除去債務	3,077	3,109
その他	32,697	92,040
<b>固定負債合計</b>	<b>58,259</b>	<b>107,632</b>
<b>負債合計</b>	<b>362,643</b>	<b>536,404</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,253,851	2,259,264
資本剰余金	473,760	479,173
利益剰余金	1,142,755	1,299,507
自己株式	-	40
株主資本合計	1,584,856	1,438,889
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	42,200	39,734
その他の包括利益累計額合計	42,200	39,734
純資産合計	1,542,655	1,399,155
負債純資産合計	1,905,299	1,935,560

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	426,792	521,862
売上原価	149,445	180,611
売上総利益	277,347	341,250
販売費及び一般管理費	542,935	506,290
営業損失( )	265,588	165,039
営業外収益		
受取利息	289	377
為替差益	16,089	-
補助金収入	-	10,190
受取負担金	-	3,703
その他	710	1,690
営業外収益合計	17,089	15,962
営業外費用		
支払利息	748	549
株式交付費	611	123
為替差損	-	5,687
営業外費用合計	1,359	6,360
経常損失( )	249,858	155,437
特別損失		
固定資産除却損	39	109
特別損失合計	39	109
税金等調整前四半期純損失( )	249,897	155,546
法人税、住民税及び事業税	1,158	1,205
法人税等合計	1,158	1,205
四半期純損失( )	251,056	156,752
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	251,056	156,752

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失( )	251,056	156,752
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,919	2,466
その他の包括利益合計	1,919	2,466
四半期包括利益	252,975	154,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	252,975	154,285

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	249,897	155,546
減価償却費	12,872	25,673
のれん償却額	18,118	15,960
株式報酬費用	12,332	7,010
受取利息	289	377
支払利息	748	549
為替差損益( は益)	15,360	2,761
補助金収入	-	10,190
有形固定資産除却損	39	109
売上債権の増減額( は増加)	48,645	103,678
たな卸資産の増減額( は増加)	37,755	70,643
仕入債務の増減額( は減少)	3,000	7,408
未払金の増減額( は減少)	3,549	9,799
前受金の増減額( は減少)	79,207	110,941
その他	41,782	2,209
小計	89,007	25,326
利息及び配当金の受取額	280	377
利息の支払額	742	546
補助金の受取額	-	11,558
法人税等の支払額	1,389	2,407
法人税等の還付額	1,506	17
営業活動によるキャッシュ・フロー	89,353	34,327
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	8,689	15,577
無形固定資産の取得による支出	414	-
子会社株式の取得価格修正による収入	-	14,594
その他	366	225
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,737	757
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	28,002	16,002
リース債務の返済による支出	2,504	12,253
割賦債務の返済による支出	1,728	1,728
自己株式の取得による支出	-	40
財務活動によるキャッシュ・フロー	32,234	30,023
現金及び現金同等物に係る換算差額	16,863	4,769
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	113,461	1,223
現金及び現金同等物の期首残高	932,937	656,689
現金及び現金同等物の四半期末残高	819,475	655,466

【注記事項】

(会計方針の変更)

当社グループの一部の在外子会社は、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結貸借対照表において使用権資産が81,305千円、流動負債のその他が17,047千円、固定負債のその他が64,385千円、それぞれ増加しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
役員報酬	79,598千円	71,617千円
給料及び手当	93,816	110,971
退職給付費用	2,896	3,176
減価償却費	3,718	4,884
研究開発費	128,501	105,579
支払手数料	54,374	50,678

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	819,475千円	655,466千円
現金及び現金同等物	819,475	655,466

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「PXBマウス事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純損失( )	86円18銭	53円54銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	251,056	156,752
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失 ( )(千円)	251,056	156,752
普通株式の期中平均株式数(株)	2,913,019	2,927,677
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

株式会社フェニックスバイオ  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 和 泉 年 昭 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河 合 聡一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フェニックスバイオの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フェニックスバイオ及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。